

秋田港の利用について

ニプロ(株)大館工場



2026年1月14日

1. ニプロ、大館工場概要のご紹介
2. ダイアライザの製品及び事業のご紹介
3. 工場の物流について
4. 秋田港利用拡大に向けての要望

設立

1954年7月8日

本社

大阪府摂津市千里丘新町3番26号

資本金

843億97百万円

株式上場

1987年2月
現在 東京証券取引所プライム市場

従業員数

39,168名 (国内10,119名 海外29,049名)
(連結会社含む)

事業内容

医療機器、医薬品および医療用硝子製品の製造・販売

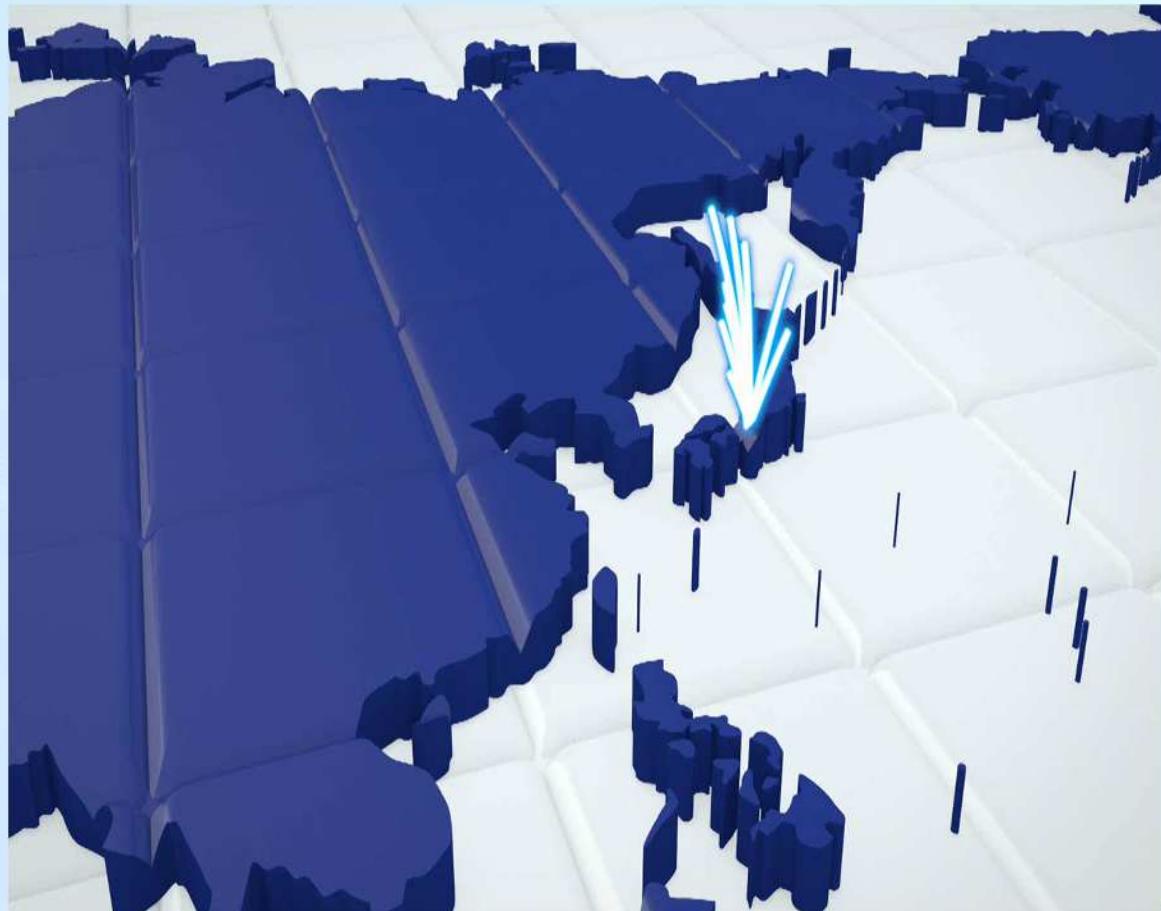
代表取締役

山崎 剛司

主要事業所

連結子会社161社・非連結子会社7社・関連会社7社

海外進出拠点：61ヶ国



製造拠点

71力所

(国内34 海外37)

販売拠点

287力所

(国内65 海外222)



医療機器事業



医薬事業



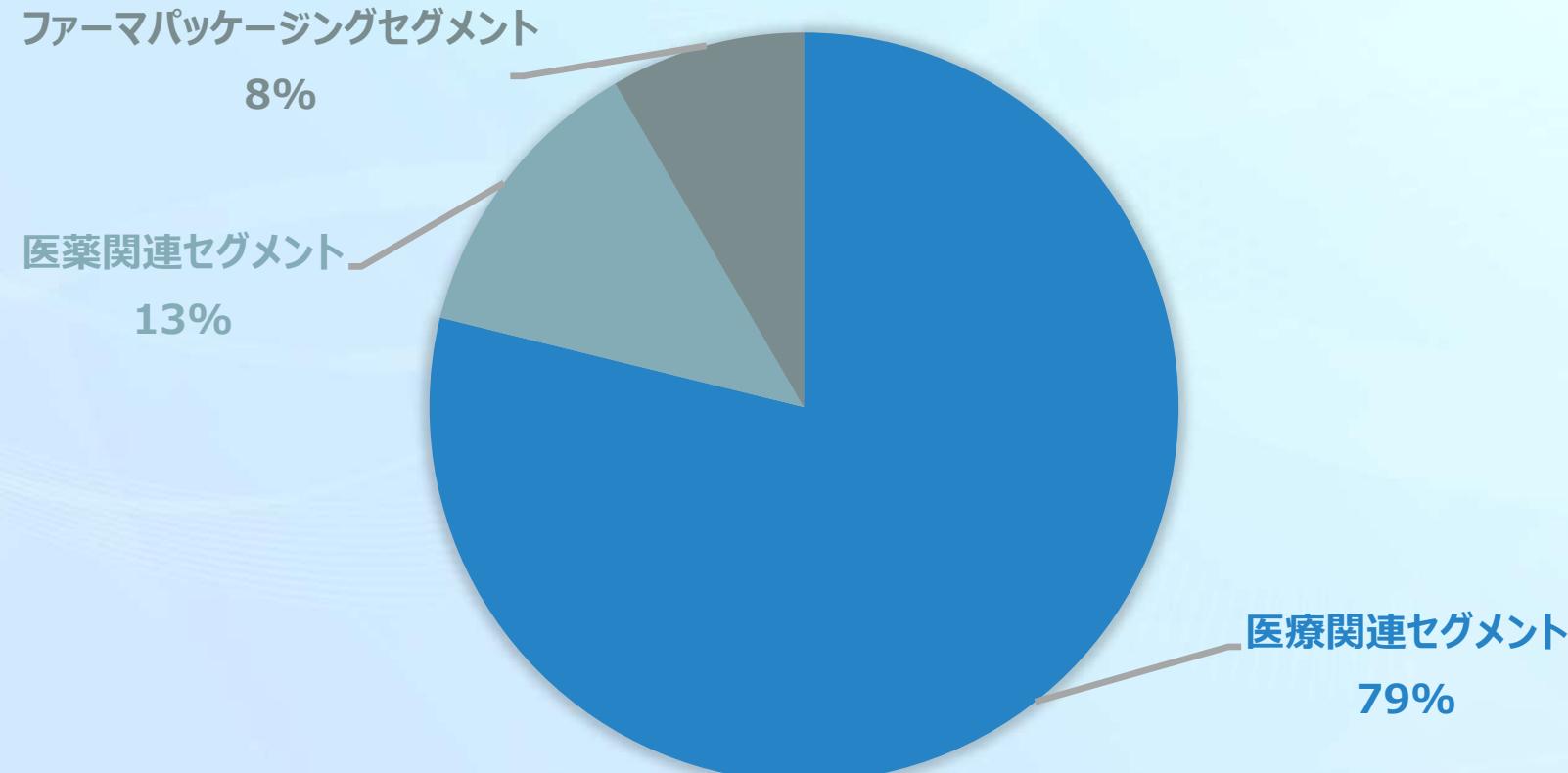
ファーマパッケージング事業



再生医療事業

セグメント別売上高

・2025年度通期予想



合計売上高；6,770億円

「品質方針」

お客様に満足される製品を提供し、システムを継続的に向上させる

沿革	1981年 4月	工場設立・稼働(従業員約180名)
	1983年 4月	<u>第2工場(ゴム栓)稼働</u>
	1988年 3月	滅菌棟(γ線滅菌)稼働
	4月	社名変更(日本医工 → ニッショーダイ館工場)
	5月	<u>第3工場(FBダ"イライ")稼働</u>
	1995年 9月	ISO 9001およびEN 46001認証取得
	2001年 4月	社名変更(ニッショーダイ館工場 → ニプロ大館工場)
	9月	ISO 13485認証取得 (品質マネジメントシステム)
	2006年 7月	<u>第4工場(PESダ"イライ"一貫製造ライン)稼働</u>
	2007年 6月	<u>第5工場(PESダ"イライ"一貫製造ライン)稼働</u>
	11月	第3工場(製薬棟)増築
	2010年 3月	電子線滅菌稼働
	2012年 11月	<u>第6工場(人工肺関連製品)稼働</u>
	2014年 1月	ISO 14001認証取得(環境マネジメントシステム)
	2015年 10月	<u>第6工場(PESダ"イライ"一貫製造ライン)増設</u>
	2018年 4月	事業所内保育所開所
	2021年 5月	ワクチン用シリンジ(7回採液用) 製造開始
	7月	<u>第7工場 建築着工</u>
	2023年 7月	<u>第7工場 建屋完成</u>
	10月	<u>第7工場稼働(PES・FBダ"イライ"一貫製造ライン)</u>

従業員： 1,820名 (男子1,282名, 女子538名) 2025年9月15日現在



ニプロ大館工場 敷地：271,983m²（約82,275坪） 建物：199,915m²（約60,474坪）
ニプロファーマ 敷地：204,890m²（約61,979坪） 建物：99,759m²（約30,117坪）



敷地：271,983m²(約82,275坪) 建物：199,915m²(約60,474坪)

大館工場の製品紹介



ダイアライザー(人工腎臓)



シリンジ



カテーテル



膜型人工肺



静脈用留置針



真空採血管



体外診断薬



医療用ゴム栓



ダイアライザ(人工腎臓)のご紹介

人工腎臓（H D：血液透析器）

P E S ダイアライザ (ポリエーテルスルホン膜)



F B ダイアライザ (セルローストリアセテート膜)





※「直径」とは、ダイアライザの糸（中空糸）の内側の直径（内径）をさします

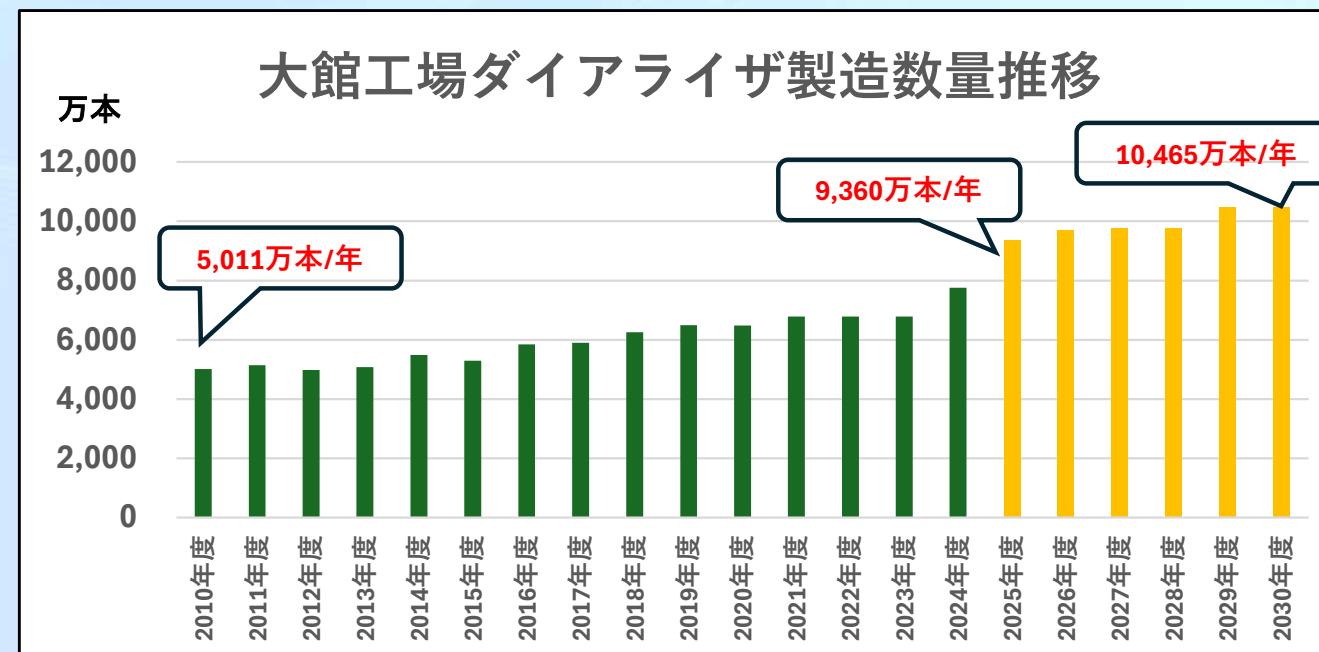
ダイアライザの推移

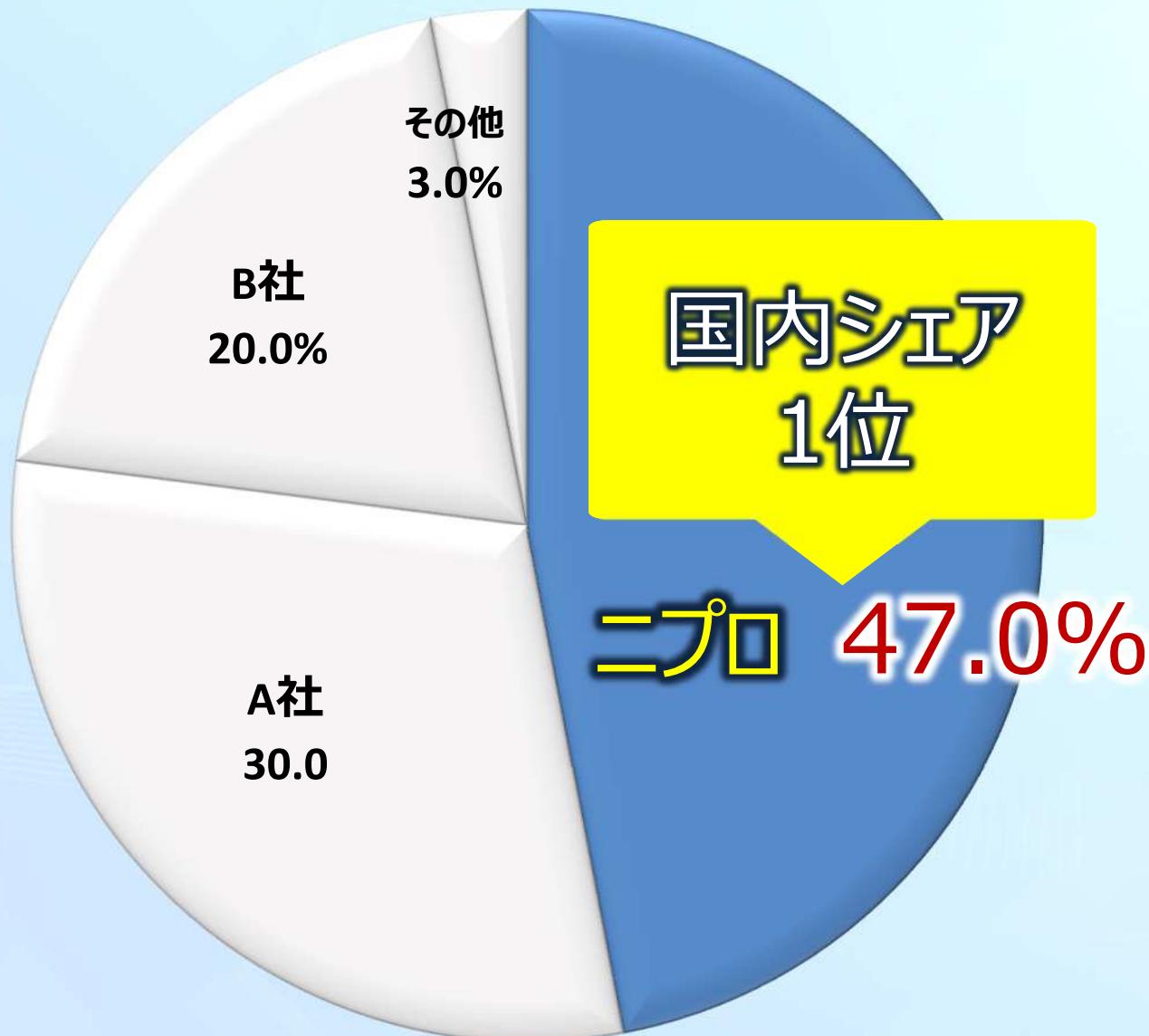
世界の透析患者は、毎年約5~6%ずつ増加

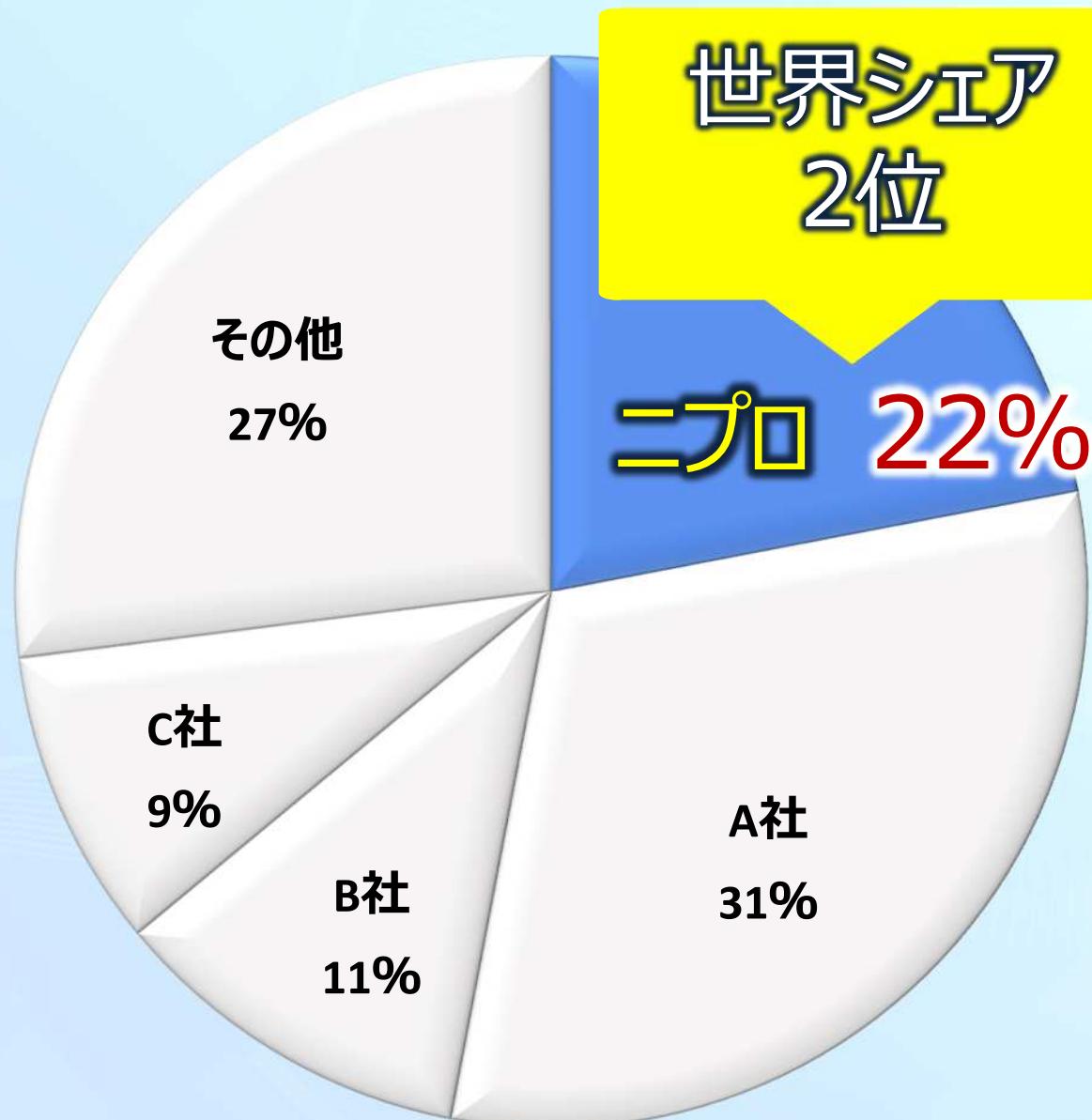
- ・新興国の経済発展 → 今まで透析が受けられなかった患者が透析を受けられるようになった
- ・先進国では薬の治療方法が出現 → 患者の透析治療が遅れる傾向

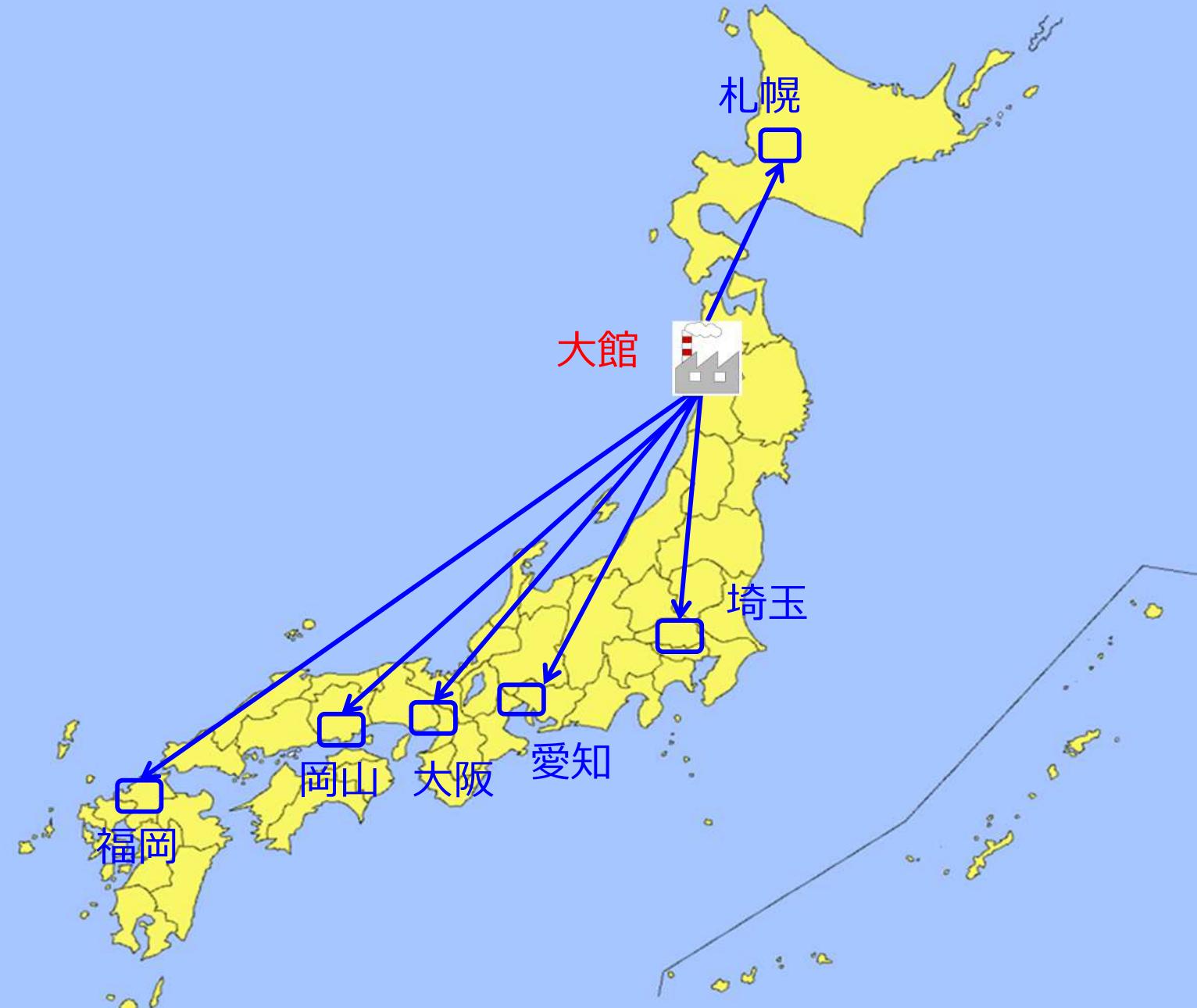
ニプロのシェアは2024年度、国内47%、世界22% → 今後も増加予定

世界の透析患者は380万人 → 大館工場のダイアライザで約78万人(20%)の透析患者を助けている状況

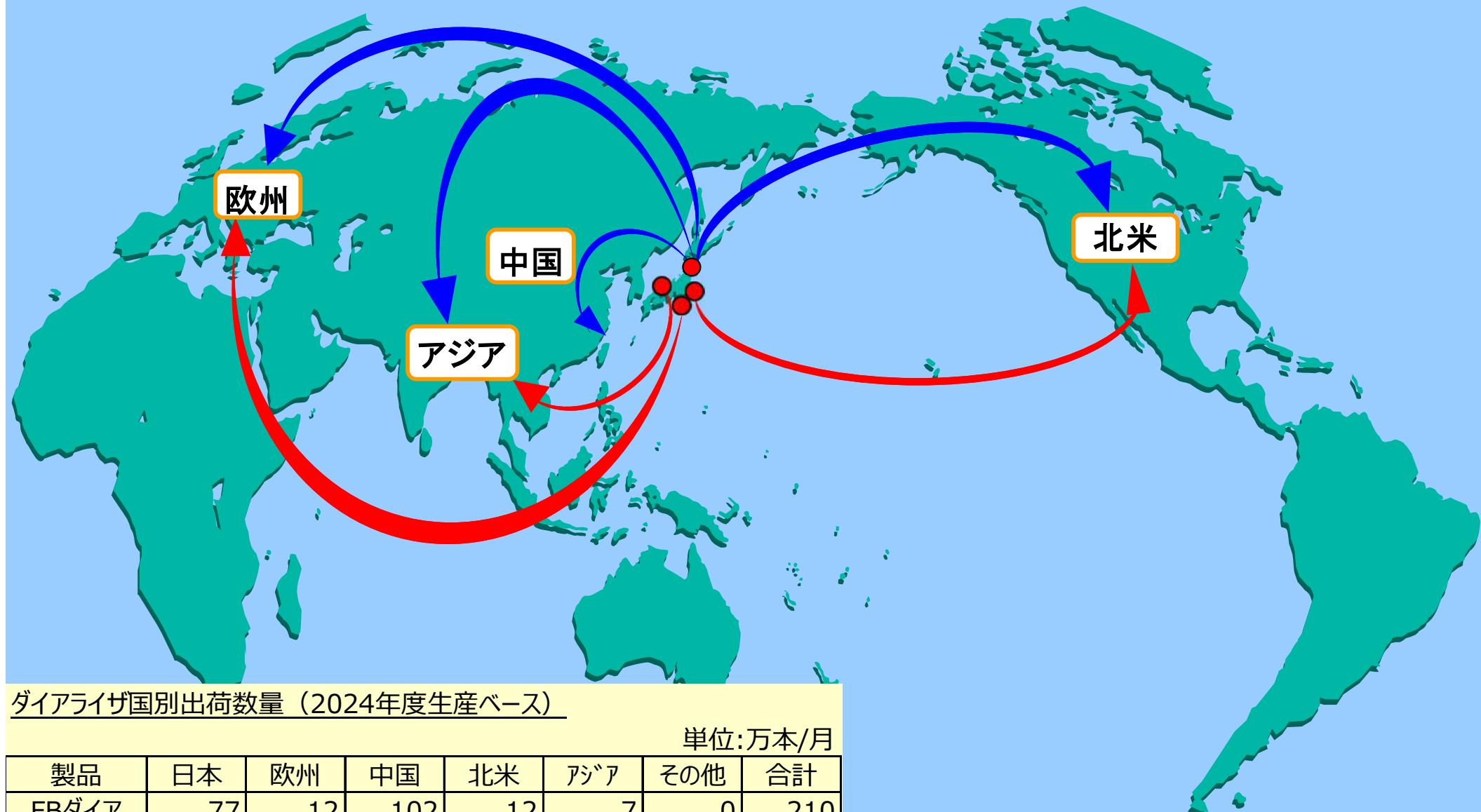








大館工場の国別出荷比率



ダイアライザ国別出荷数量（2024年度生産ベース）

単位:万本/月

製品	日本	欧州	中国	北米	アジア	その他	合計
FBダイア	77	12	102	12	7	0	210
PESダイア	126	41	20	174	61	14	436
合計	203	53	122	186	68	14	646
比率	31%	8%	19%	29%	11%	2%	100%
	31%		69%				100%

港別 出荷比率

2024年度

港名	数量比率
秋田港	18%
八戸港	8%
大船渡港	4%
東京港	69%
横浜港	1%
合計	100%

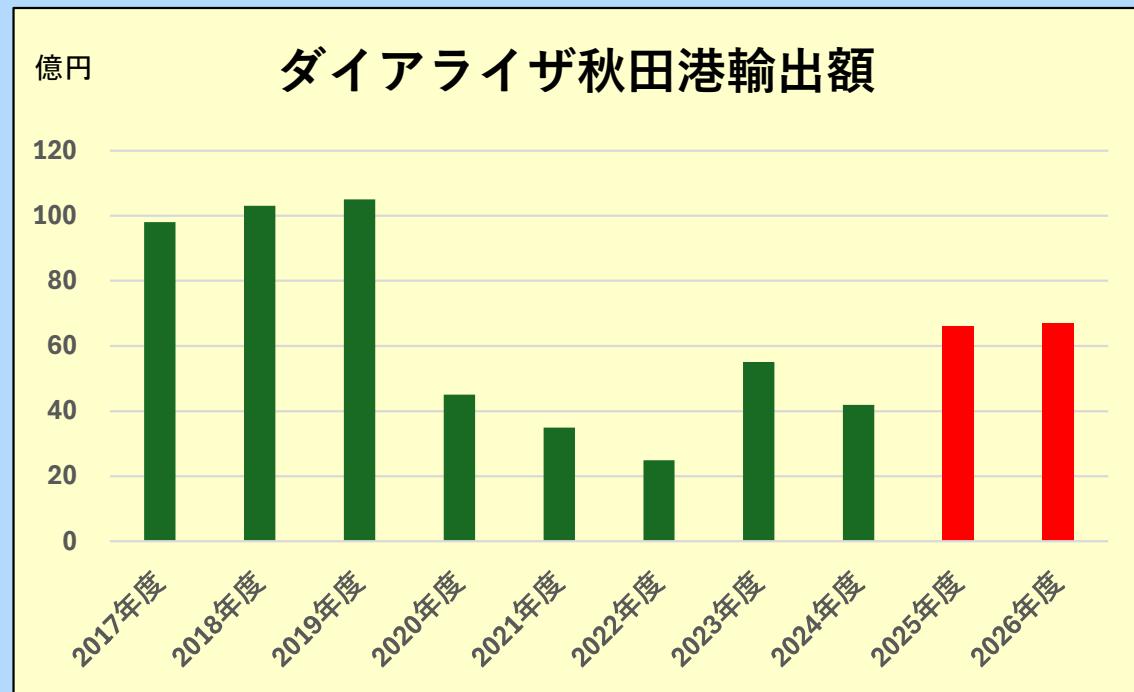


コンテナ輸出量

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
取扱量(TEU)	1,244	1,383	1,501	679	509	353	512	395	800	920	1,040	1,160	1,280

赤色は見込

- 2020年度以降はコロナの影響やコンテナ不足問題等が影響し、利用が減少。
- 2023年度は北米向けの倍増により増加。
- 2024年度は太平洋側地方港の利用増により一時的に減少。



赤色は見込

秋田港利用拡大に向けての要望等

1) リードタイムの短縮について

他港に比べて10~15日程度リードタイムが長い。

→ 納期に余裕のある製品のみの利用。

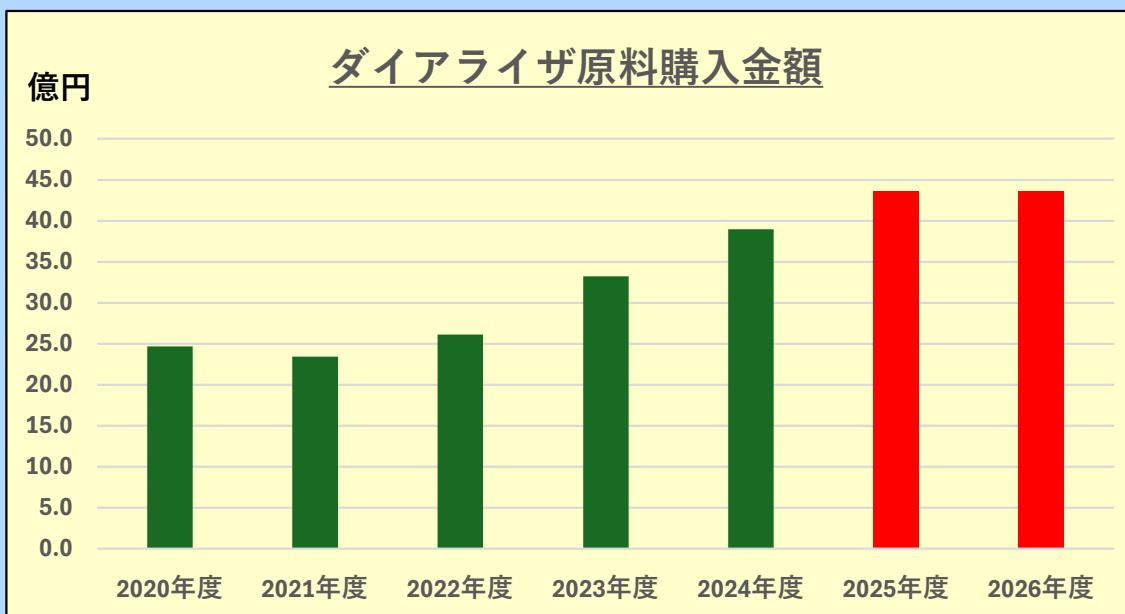
リードタイム短縮 → 更なる利用拡大に繋がる。

2) 秋田港からの原料輸入利用について

ダイアライザーの中空糸原料は、インド・韓国からの輸入。

今後、輸入元と協議し、東京港→秋田港の輸入が可能か模索。

→ 運行本数が少ないこと、冬期間の遅延等で安定供給の観点からの懸念。



3) 現状の契約船社以外にも港との契約を増やして頂きたい。

→ ① 契約船社の増
② 定期航路サービスの拡充。

4) 釜山を経由しない直行サービスなども希望。

→(例：仙台港発上海向けSITCのサービス)

(参考)SITCは、中国を拠点とする総合物流企業であるSITC(新海豊集裝箱運輸有限公司)グループの船会社。

主にアジア域内の航路を専門としており、日本、中国、東南アジア、韓国などを結ぶコンテナ船サービスを運営。

5) 冬場の遅延等によるターミナルチャージ免除等のお願い。

→(港近辺の空いている土地に屋根付きの保管場所が建設され、チャージ免除等を希望します。)

6) インランドデポによる大館からのトラック輸送

→ 秋田港の利用拡大を図るため、秋田港へのアクセス道路の早期開通を要望。

(日沿道の早期開通・秋田北IC～秋田港へのアクセス)

ご清聴有難うございました。